

有明海・八代海再生セミナー in 八代海が開催されました



「有明海・八代海再生セミナーin八代海～有明海・八代海再生のため私たちにできること～」(熊本県主催)が、平成20年2月2日(土)に、「やつしろハーモニーホール」で開催されました。この趣旨は、滝川教授が指導して纏めた「熊本県の有明海・八代海再生の基本方針(マスタープラン)」を住民に知ってもらい、皆で再生に向かって取り組むことです。

滝川教授の基調講演に引き続き、森、川、海のそれぞれで活動しているNPOなどの自主活動事例が紹介され、その後、一般住民を交えて「八代海の再生と次世代に豊かな海を」のテーマで活発な意見交換が行なわれました。約180名が参加し、「住民自らが再生に向けて積極的に取り組む姿勢」や「行政や大学等の取り組みだけでなく、地域住民や民間団体が協働で取り組むネットワーク化が必要」など積極的な意見がありました。八代海再生への住民参加の第1歩が踏み出されたセミナーでした。今後、住民主体となり行政や大学等との連携体制が築かれて、有明海・八代海の再生へ繋がるものと期待されます。

今後とも皆様のご理解と協働をよろしく御願いたします。



「干潟調査報告書」が 発行されました

環境省自然環境局生物多様性センターから、第7回自然環境保全基礎調査として浅海域生態系調査(干潟調査)報告書が発行されました。

本調査は、2002～2004年に全国157カ所の干潟で行われた底生動物調査で、「日本の重要湿地 500」に選定された干潟を中心に調査が行われました。九州地区は、逸見教授とセンターの学外協力研究者である佐藤正典准教授(鹿児島大)が担当し、計38カ所(そのうち、有明海は13カ所、八代海は2カ所)で調査を行いました。

調査の結果、全国で1667種の底生生物が確認されましたが、中でも九州地区は多く、計700種に達しました。以下、沖縄地区630種、中国四国地区454種、近畿地区380種の順でした。九州の中でも、出現種数が多かったのは有明海でいずれの調査地でも50種以上の底生動物が確認されました(平均88種、最大は天草松島の148種)。以下、平均出現種数は、奄美大島の86種、八代海の75種、九州東北部の70種、玄界灘58種の順でした。このように有明海・八代海は底生動物の多様性が高く、彼らの重要な棲息地であることが再確認された調査でした。



なお、報告書の全文は、以下のホームページで読むことができます。

自然環境保全基礎調査

http://www.biodic.go.jp/kiso/fnd_f.html